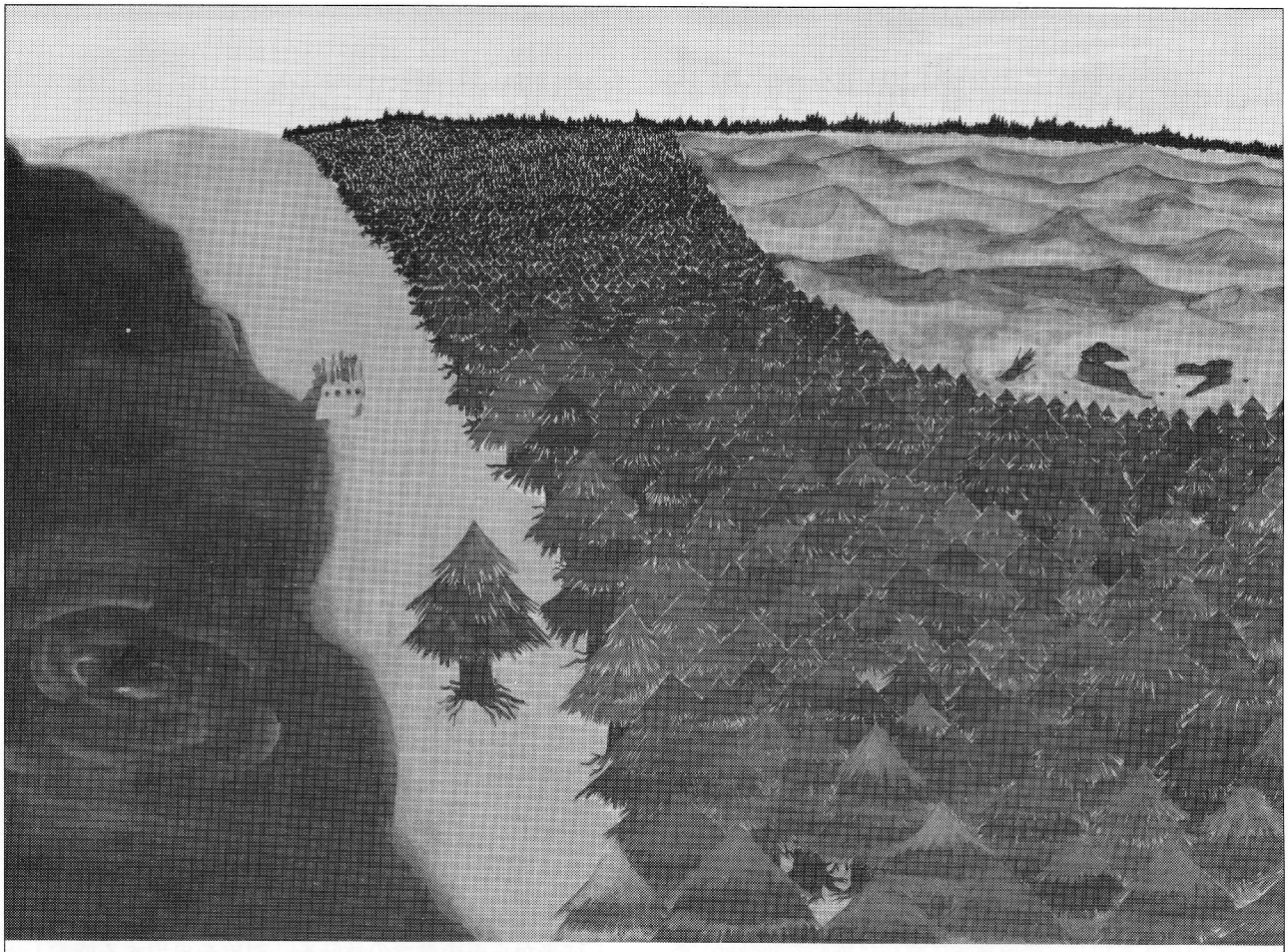


風　景（心象の）

五十嵐　彩子　札幌市立石山中学校（2年）

第22回北海道教育美術展奨励賞作品

評　木を描き分けるときの呼吸がきこえてくるような絵です。砂浜にたつと、ふと、このような風景をイメージするものです。

目　次

造形教育は「心の教育」……2
新しい試み一杯の46回札幌大会……3
第46回全道造形教育研究大会・札幌大会……4
私の学校・私の実践……6
第47回全道造形教育研究大会・根室大会……7
第23回北海道教育美術展／あとがき……8

北海道造形教育連盟報

No.102　1996.7.10発行

発行　北海道造形教育連盟

事務局　〒063　札幌市西区発寒10条4丁目
札幌市立発寒小学校　吉田倭雄
☎011-661-2521

造形教育は「心の教育」

北海道造形教育連盟 委員長
白　井　圀　毅
（札幌市立山鼻小学校 校長）

21世紀に向けての教育の基本政策を審議している第15期中央教育審議会の審議のまとめが公表されました。

これからの子供に求められるのは変化の激しい社会に『生きる力』であり、これを育むことが今後の教育の課題となりそうです。

この『生きる力』とは、「自分で課題をみつけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」と「自らを律しつつ他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力」であるといいます。

つまり、新しい学力観に立つ教育として重視してきた資質・能力に更に“心の教育”をも含め、“資質・能力・心”の一体化されたものが『生きる力』と捉えることができます。

国民の願いも「物の豊かさ」から「心の豊かさ」に変化してから久しいし、造形教育に熱心に携わる教師は、造形教育は人間形成にとってなくてはならないものであり、「心の教育」に少なからず貢献してきたと自負してきました。

中教審のまとめが公表されたいま、再認識しなければならないのは、図画工作科・美術科は、表現の喜びを味わわせるとともに豊かな情操を養い、心を豊かにするもので、豊かな「心の教育」に目標が置かれていることです。そのため、新しい学力観に基づいた授業の改善や子供観・教育の在り方にまで及ぶ意識改革に本腰を入れていかねばなりません。

第一に、私達は、子供相互の響き合いを活力にした活発な活動を期待し、一人一人のよさや可能性をみつけ、認め、共感しながら子供の夢や願いに応えることのできる支援でありたいと思います。

そして、表現活動を通して、美しさ、やさしさ、自分や友人のよさ、自然の美や偉大さ、生の輝きなどを認識させ、表現する喜び、楽しさ、満足感や成就感を十分に味わわせなければなりません。

しかし、ややもすると子供の作品が上手、下手で片付けられていないでしょうか。作品主義に陥り、高度な作品、完成度の高い作品を生み出したり、目新しい題材の開発に腐心することが教師の指導の力量の高さだと誤解してはいないでしょうか。

第二に、表現方法はその子なりのよさや可能性が生かされねばなりません。自分らしい思いや夢などを基にして発想、構想したことを手や心を十分働かせ、具体的に表現を工夫しながら自分にふさわしい技法を発見し、それを高めていく「創造的な技法」を大切にしていかねばなりません。

従来から美術教育の意味を「対象を再現する能力」と考えられ、その再現のための技法を重視してきました。

そのためか、この技術主義的な体質を払拭できず、様々な造形の知識や技法、表現の枠組みや手法を強調した教師中心の画一的な指導がみられます。

技法を一方的に与えたり、基礎練習により習得させたり、決められた技法による表現活動があってはならないということからか、中教審のまとめに「美術における各種の表現方法」が小・中学校の教科厳選の対象例にあげられています。

これからの造形教育は、子供自ら価値あるものに気付き、それを自分の思い、感じ方などで実現していくという「人間的な自己実現」の場となるよう強く求められているのです。

平成８年度　役員・本部事務局

委員長	白井圀毅	札幌市立山鼻小長	事務局次長	小尾　喬	札幌市立すずらん幼長
副委員長	小杉信雄	旭川市立神楽岡小長	〃	福嶋　齋	札幌市立北陽小長
〃	石井　久	函館市立日吉が丘小長	〃	村谷利一	札幌市立栄南中長
〃	鍋谷尊之	別海町立上西春別小長	〃	香西富士夫	札幌市立平岸高
〃	高橋鐐治	留萌市立留萌中長	会計部長	芝木秀昭	札幌市立西野第二小頭
〃	奥野郁男	札幌市立向陵中長	庶務部長	永井恭子	札幌市立中央幼長
監査	須貝　徹	斜里町立以久科小長	広報部長	毛馬内國夫	札幌市立桑園小
〃	宮川誠一	江別市立江別第二中長	研究部長	菅原清貴	札幌市立三角山小
事務局長	吉田倭雄	札幌市立発寒小長	事業部長	小柳雄嗣	札幌市立琴似中央小

新しい試み一杯の46回札幌大会

北海道造形教育連盟
伊　藤　善　彬
（札幌市立白石小学校 校長）

北海道造形教育連盟（以下連盟）46回大会は札幌で行われる10回目の大会である。丁度2000年には50回という半世紀の大きな節目を迎えようとしている。

今回の大会を札幌で行うことが決まってから、札幌造形教育連盟（以下札造連）を中心に現行の学習指導要領が提唱する教育理念にもとづくと共に、それを具現化する授業構築、さらには分科会のあり方・また今後の大会のありようを志向するものをと『愛・感・美・遊・創in札幌』のテーマのもとにアイデアを出し合い数十回の協議を重ねて練り上げてきた。

札幌造形教育連盟が平成5年10月に結成されてから連盟の研究部の提唱する研究主題の下に、幼・小・中の関連を具体化しょうと平成4年度から始めた授業研究を小学校・幼稚園・中学校の各部会で検討した授業を公開し合うなどして研究強化を図ってきた。

さらに冬には『おもしろ冬工房』と称して冬休み中1泊2日日程で個々の実践の交流・グループでの身辺素材による創作活動・先輩を講師として技術の伝承等盛り沢山の2日間を過ごした。

特に札幌大会を目前にした平成7年度の『おもしろ冬工房　Ⅱ』では札幌大会の分科会の持ち方や全校図工授業を志向した日程を組み、それぞれ大まかな骨組みを検証した。

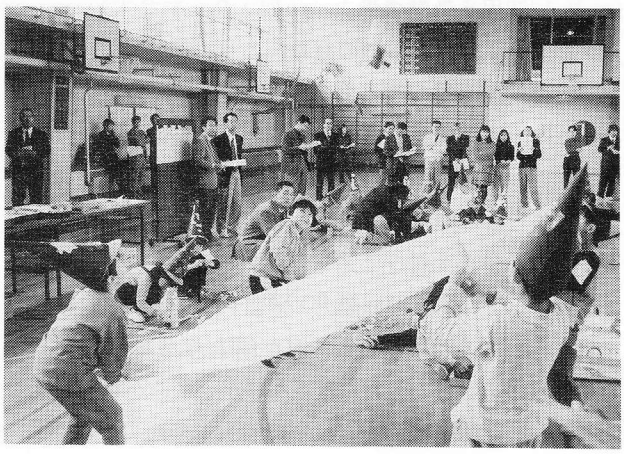
平成7年には札造連の中学校部会、小学校中学年部会・高学年部会でそれぞれ授業実践を重ね、秋には山鼻小学校を会場に低学年部会の授業を公開したのを機会に「プレ札幌大会」を行い、さらに札造連としての札幌大会像をレイアウトした。

2日目の美術館を利用しての授業は中学校の札幌市教育研究協議会中学校美術部会での実践を基にしたもので、道立近代美術館・道立三岸好太郎美術館共に全面的に協力をいただくことができた。このことが近い将来完全実施されるであろう学校5日制の中で児童生徒が個人的に気軽に美術館を利用することにつながっていくことを期待している。道立の両美術館とも、そのことをふまえ平成8年4月から常設館のみ無料ということを打ち出している。

幼稚園の部には札幌私立札幌みなみ幼稚園の協力を得ることができ、昨年12月から3度の幼稚園のみの研修を深めてきたところである。

今までにない試みが一杯で参加の皆さんには戸惑いも多いかもしれないが、全て札幌のメンバーでしかも手作りでやってみようとした意気込みだけは味わっていただけるものと考えている。

全道からの大勢の皆さんのお越しをお待ちすると共に、今回の大会の試みに対してのご意見をたくさんいただくことを願っている。



第46回全道造形教育研究大会　札幌1996大会

豊かな心を育む
造形教育を通して
全道の仲間が
『愛』で結ばれ
明日の扉を開こう

■大会主題…造形＝愛・感・美・遊・創in札幌

■1996年7月26日(金)・27日(土)

第1日・札幌市立山鼻小学校・札幌みなみ幼稚園
第2日・北海道立近代美術館・三岸好太郎美術館

いよいよ札幌での造形教育研究大会が近付いてまいりました。今回の札幌は、ひと味もふた味もこれまでの大会とは違ったものになります。私たちは、この大会を通して21世紀の造形教育を展望したいと考えています。

器にあたる2日間の設計から、これまでの大会のイメージを脱したコンセプトでセッティングを試みました。

そして、器に盛り付ける授業や提言も『札幌の主張』が明確になるものでなくてはならないと考えました。

大会主題について

造形教育に今必要とされる5つのキーワードを網羅する『愛・感・美・遊・創』を苗床に、『8つの扉』(ドアーズ8)から、自由にその本質に向かって共に考えていきたいという願いを込めて主題を設定しました。

このキーワードは、あまりにも大きく大胆に見えることでしょう。また、この5つの文字が並列に並べられていることに、危惧を感じることでしょう。確かに愛はすべての人間性の根源に迫るものであり、創や美に関しても造形教育だけで語るには、奢りだとおっしゃるでしょう。しかし、私たちはあえてマクロな視点に立ち、教育者として今一番大切で、一番求められているものは何かを考えたとき、この5つの言葉がもつ価値に着目し、全身でこの言葉を吸い込む度量の大きさが必要であろうと語り合ったのです。

愛とは…対象や材料に対する愛・仲間と育つ愛・子供を思う教師の愛。

感とは…人間的な感動の掘り起こし<朝顔の雫に・夕空に・風の香りに「あ〜」と感動する心>

美とは…人間の真実のひとつ・祈りにも似た感動につながる美的感性。

遊とは…心の豊かさやゆとりから自然に生み出される遊び心・遊びと造形は恋人同士。

創とは…文化形成の原動力・発想や直感力や美的感覚など人間形成の源それが創造力。

この5つの言葉が、どんな花を咲かせるのか私たちはこの目で心で見たいのです。感じたいのです。

大会のセールスポイント

第1日目『感性と創造の1日』

<階段式授業公開>

子供の願いや思いにそった授業内容を検討する時、その時間設定は、もっと自由なものでなくてはと考えました。そこで、活動にあった時間を子供の側に立って授業者が設定し、それを階段状に配置しました。また、山鼻小学校の全児童による『全校ジャンボ授業』も体育館を教室に展開します。

<バイキング式分科会>　－校種の壁を取り払う－

研究主題の具体的な切り込み口として、『8つの扉』を設定しました。それぞれの扉には、座長を設け経験豊かな語り口の中で、テーマ追及がなされます。提言・ミニ実技研修・作家によるミニ講演・メディア実演など多彩に展開されます。参会者は、興味関心に合わせて扉を選択します。途中に移動可能な時間帯を設けますので、さらに選択の幅が広がるでしょう。

<グルーピング交流会>

全道ネットワーク分科会を旭川大会より実施し4年目をむかえます。大会2日目にネットワーク会議を持ちますが、その前にもっと自由に、もっと楽しく全員が触れ合える場を設定します。地域の枠を越え、仲間の輪を一層広げる、愛に満ちた交流を企画します。

第2日目『感性と学びの1日』

<2つの美術館で感動満開>

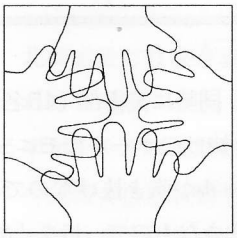
『アートレッスン』(モダンアートタイムス・パリと日本人…小学校企画)・『探検美術館』(花をテーマにした節子婦人との二人展…中学校企画)スライドビデオレクチャー・全道ネットワーク会議を同時に進行しますので、興味のあるイベントに参加ください。その後、近代美術館の講堂で『表現講演会…紙の造形』を伊藤恵先生をお招きして開催いたします。

感動と感性を共有したい。そして、この2日間を通して、限りなく個人を大切にする教科・限りなく個性を尊重する教科である造形教育に確信を持ちましょう。

愛・感・美・遊・創に迫る『8つの扉』

校種別の分科会を廃止しました。もっと視野を広く、もっと子供の側に立って、その成長の過程を見つめたいという願いがあります。難しいことですが、共に語り合いましょう。子供の未来を造形を通して…

造形とあそび



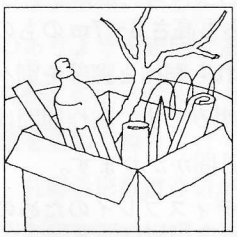
＜札幌の主張＞

・遊びを通して・遊びそのもののために造形活動は一層広がる。

・子供の意欲が連続するヒントが“遊び”の中にある。

◆座長…佐藤　靖 先生

造形ともの・材料



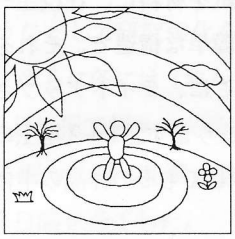
＜札幌の主張＞

・そのもののよさを最大限生かしものと対話するのが造形活動。

・語らいの時間を保証することでものとの共存が生まれる。

◆座長…冨田　泰 先生

造形と環境



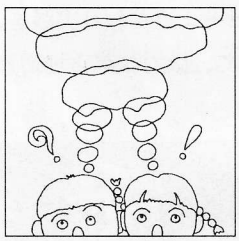
＜札幌の主張＞

・環境を深く吟味すれば、環境への働きかけが必ず始まる。

・五感で感じる『原っぱ文化』が子供を育てる。

◆座長…村谷　利一 先生

造形とイメージ



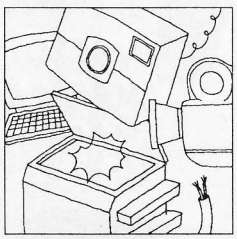
＜札幌の主張＞

・何かを訴えたい、伝えたいという意欲が大切。

・対象に対して、自ら働きかけ要求したものの方が価値がある。

◆座長…西　寛 先生

造形とメディア



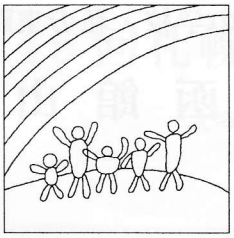
＜札幌の主張＞

・受け取るものから、つくるものへ造形活動の道具としよう。

・絵筆のように活用する新たな方法を見付けよう。

◆座長…武市　尚政 先生

造形と個性



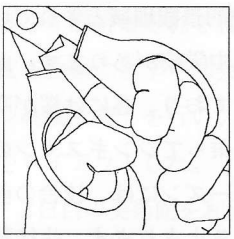
＜札幌の主張＞

・「○○ちゃんらしい作品だね」の言葉がでる授業。

・安心し発想や構想を発表し創造的に表現できる場に個性が育つ

◆座長…奥野　邦男 先生

造形と技



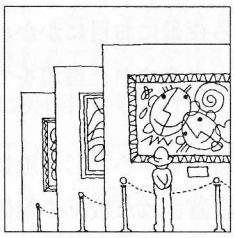
＜札幌の主張＞

・技は教わるのではなく、自ら学びとるもの。

・技は自分のイメージを表す手段である。

◆座長…芝木　秀昭 先生

造形と鑑賞



＜札幌の主張＞

・自分にとって、価値あるものを見定める目や心は、登山して楽しむ山登りの味わいにも似ている。

◆座長…藤井　正治 先生

全道の造形教育の仲間の皆様…共に語りましょう

北の大地は冷たく寒い…それは人の心も同じなの？いえいえ、それはまったく逆ですよね。大地が凍て付く度に、人も自然も愛の年輪がしっかりと刻まれていくのですから。そんな私たちのつくる温もりのある手作りの大会です。私たちは、札幌市造形教育連盟と札幌市教育研究協議会図工・美術部会そして造形教育連盟本部の3つの力を合わせ、授業研究や冬工房を通して語り合いを重ねてきました。その輪を全道に広げ語り合えることを楽しみにしております。愛を感じて美に遊して創しましょう。夏の札幌で！

〈大会マーク・扉シンボルデザイン　堀口 基一〉

大会事務局…大会申し込み・問い合わせ先
札幌市立山鼻小学校　川崎　亮一
〒064 札幌市中央区南14条西10丁目
TEL 011－511－6616
FAX 011－531－5295

・大会参加費　4,000円（昼食費 700円別）

・交流会参加費 4,000円

（文責　大会研究部長　菅原　清貴）

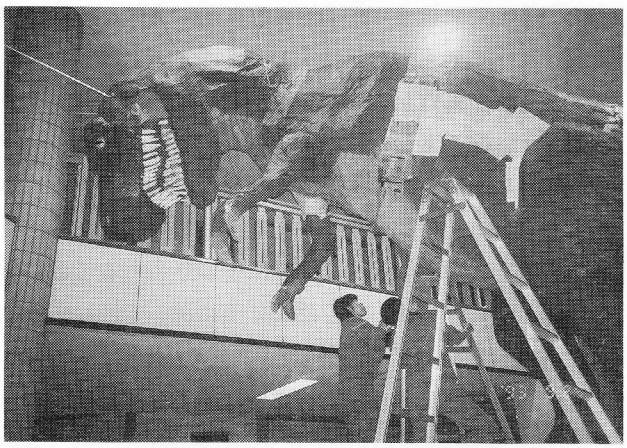
～私の学校・私の実践～

函館山山麓から

函館市立潮見中学校
仲井靖典

観光都市「函館」。中でも、歴史的景観地域とされている西部地区の東側に函館市立潮見中学校があります。函館山を背景に、函館公園と隣接しており、春には桜が咲き乱れ、夕方近くになると、風に乗ってジンギスカンの匂いが校舎まで届きます。観光シーズンには、校舎の前の道路を馬車が観光客を乗せ、立ち止まります。生徒数387名、職員数33名の、外へ出てスケッチするには最高の場所に建てられた、素敵な学校です。雨あがりの学校帰りには、運が良ければ、透き通る夜景にお目にかかれます。 美術の授業の中でも、こうした恵まれた環境をできるだけ生かしていきたいと考えます。

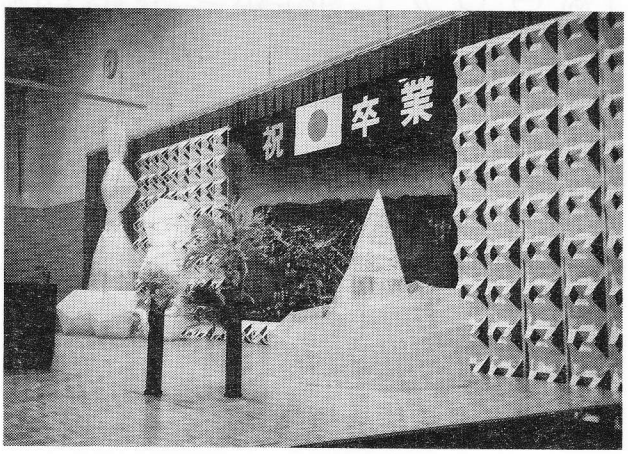
版画のモチーフには、歴史的建造物を中心とした風景を、彫刻の鑑賞には、校区付近に設置された数々の銅像やモニュメントを、その他、美術部での制作や選択教科での作品づくりなどでも大いに活用させてもらっています。



昨年から、秋の文化祭では、全校の先生方の協力体制のもと、人工の島「緑の島」で凧あげ大会が実現できました。西側の湾に浮かぶ島の広大な芝の上で、大空に向かって教え子たちの歓声が上がり、風に乗って美術の授業で制作した、ベックス紙とピアノ線でできた生徒一人一人の作品が40枚～50枚ほどの連結凧となって12本、大空高く舞い上がりました。力強く舞い上がる凧から糸を伝わってくる風を感じるという体験は、言葉では何とも言い表し切れない感動があります。同時に美術部（45名）の共同制作により、毎年、1階吹き抜けのホールにモニュメント（？）を飾り付けます。ホールが吹き抜けなので、高さ制限が無いため、できるだけ大きなもので、皆を「あっ」と驚かせようということで、今までウルトラマン、恐竜ティラノサウルスなどを登場させました。材料は新聞紙、のり、針金、たる木で、どちらも高さ6～7mのものができあがりました。構造はいずれも胴体と脚部を別々に制作し、ホールで合体させる仕組みです。制作期間は夏休み後半から9月半ばで約2ヵ月間かかります。

冬場に入ると卒業式のステージディスプレイのための制作を1～2年の授業で取り組みます。主に壁面のペーパークラフトの制作で、中央に入る図柄（美術部制作）の周囲を白く取り囲みます。白ボール紙を材料に、在校生一人一人が切ったり、折ったりした簡単な構造で、それを組み合わせて壁面を飾ります。そこに、ライトアップさせた立体を置き、ステージ全体を飾ります。1～2年生の3年生卒業を心から祝う気持ちが少しでもその作品の中に感じてもらえたら幸いです。

函館の街並を一望できる美術準備室の窓から景色を眺めながら、本校の地域周辺の美しい環境と、新しくきれいな校舎、その設備を最大限生かせるような教育実践を、これからも美術という教科を通して、微力ながら地道に続けていきたいと思っています。



今こそ郷土根室を、豊かな感性で掘り起こそう！

根室造形教育連盟
中標津町立中標津小学校 教頭
大　井　誠一郎

第47回　全道造形教育研究大会　根室大会

平成9年7月28日(月)～29日(火)

～親潮の海霧と暁が織りなす大ロマン、
そんな最果ての風土を生かして
感性を磨き合いましょう～

【第１日目】

◆ さりげなく、しとやかなる始動 ◆

受付	公開授業	移動	研究発表会 開会式	昼食	分科会	市内観光	歓迎会

8:30　9:30　10:20　10:35　11:40　12:30　15:30　18:00　20:00

【第２日目】

◆ たかまりうずく感動の余韻 ◆

受付	体験学習 ◇造形遊び ☆流木から	記念講演 「大自然と美意識」 （仮題）		閉会式

8:30　9:00　9:50　11:30　11:40　12:00

大会テーマ

「感性から発し、躍動する力を育む、造形学習を」

主題設定の理由

いわゆる感性とは、感受性とも書き表せる。刺激に反応する感覚器官の能力を指している。したがって、子どもが外界の“あらゆるもの”から何らかの刺激を受けることにより、反応する感覚器官の働きに期待が寄せられることで造形学習がある程度成立していたと思われる。

しかし、これでは主体的なメカニズムとは程遠く、何か物足りない感じが全くしないでもない。かつて、無気力・無反応・無感動など××無主義時代到来と言われたが、まさに《ただなんとなく生きている人間》を象徴化したよう的を得た言い方なのであろう。

北海道の大自然は素晴らしいと言われて久しい。たまたま、本州方面からやって来た旅行者などから、広い大地に感動する場面があちこちから頼もしく聞こえて来る。

とりわけ、この根室地方も大自然の宝庫である。そんな自然環境の中で育っている子どもたちをして、根室の大自然に対して感動させること自体は容易なことではないか。

《感性は、磨かれてこそ本領を発揮するもの》とも言われる所以である。感性を磨くとは日ごろ具体的にどのような教育活動を指しているのであろうか。子どもによっては、放っておいてもおのずから磨かれている者がいる。それは、美的才能に富んだ“天才”級の場合であろう。そういう例外的なことを除いてみると、《感性を磨くこと》すなわち《素直な心になりきること》であろう。

ここに、「造形活動（学習）を通しての人間教育」という大きな目標があるのであろう。この《素直な気持ち》が《躍動する力》へのキーワードであり、造形学習への基本の中の基本であると押えるのである。「点」にすぎない《素直な気持ち》を持続させることで「線」になる。それをキープした形で《躍動する力》への指導・支援がどのようにかかわってくるかによって、「面」や「立体」へと発展できるかも知れない。そうすることによって、大自然そのものであり、素材の宝庫としての根室の郷土（風土）がはじめて生かされてくるのではないだろうか。

主題について

造形活動とは、事物・現象に接し、触れて感じとり、気持ちや感情に移入して、技をもって《新たな形》をつくることである。

《素直な気持ち》を造形活動を通して一段と《研ぎ澄まされた心》に持っていくことにより、おのずから《躍動する力》が沸き上がってくるメカニズムを体得させることが、この教科の指導ポイントとしておさえたい。

すなわち人間形成の役割を担う教科としての存在価値を、今一度、内外に確かめようとするものである。

第23回北海道教育美術展

第22回　奨励賞作品

札幌市立八軒小　5年　西方香子

会期　平成9年1月9日(木)～14日(火)

主催　北海道造形教育連盟
　　北海道新聞社
後援　北海道教育委員会
協賛　さっぽろ東急百貨店
　　株式会社サクラクレパス

北海道教育美術展は、全道各地の保育所、幼稚園、小学校、中学校の子ども達の作品を集めた道内最大規模の展覧会です。子どもの想いにあふれ、素直でのびのびとした作品が多くの指導者の熱意と共に、全国的に高く評価されています。

今年度も、子どもらしく楽しい作品、豊かな感性にあふれた作品を期待しております。日常の学習で取り組まれた作品を多数応募くださいますようお願いいたします。

【応募規定】

◇絵画、版画、デザイン等の作品とし、学校(園)を窓口として応募する。

◇大きさは4つ切り。4つ切り以下の作品は4つ切り大の台紙を貼ること。

◇一人1点の出品とする。

また、新しい表現の作品についても検討され、次のような基準で半立体作品も取り上げられています。

- 積み重ねてもつぶれない、かさばらないこと。
- 接着が強固ではがれないこと。
- 画鋲で展示が可能な重量であること。

締切　平成8年12月16日(月)

問い合わせ先
札幌市立白石小学校　田口　和男
TEL　011－861－9265

あとがき

造形教育に対する期待がますます高まっています。しっかり受けとめて一人ひとりが答えを出しましょう。全道の仲間が集まって確かめあえるのをたのしみにしています。札幌大会で会いましょう。

安木 尚博(幌南小)　今 裕子(山鼻小)　益村 豊(山鼻南小)　伊藤 尚(米里中)　毛馬内 國夫(桑園小)